

BASF、環境に優しい金属表面処理剤「ルガルバン®」を開発

2005年5月9日

- 鉄鋼メーカーなどに向けて日本でのマーケティング活動を開始 -

BASF (本社 :ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)は、有毒なクロム酸塩はもちろん、フッ化物や重金属も含まない環境に優しい金属表面処理剤「ルガルバン®」を開発しました。欧州及び北米では、サンプル出荷がすでに開始されており、日本でも今後の本格販売に向けて、マーケティング活動を開始します。特に鉄鋼メーカーなどをターゲットに市場開発を行います。

従来、使用されていたクロメート処理は RoHS や WEEE 指令により使用できなくなりつつあります。BASFが新たに開発したルガルバン製品は、環境への影響が懸念されている従来のクロメート処理に代わる新世代の表面処理剤として、亜鉛メッキ鋼板やアルミニウムの表面に使用することができます。

「ルガルバン®」は、亜鉛メッキ鋼板向けに「ルガルバン・パッシベーション」と、アルミニウム製品向けに「ルガルバン FDC」の2種類で展開します。それぞれの特徴は以下の通りです。

「ルガルバン・パッシベーション」

- (1) 市場の他の製品とは異なり重金属を使用しないため、毒性による問題がない。
- (2) ルガルバン・パッシベーションによって亜鉛メッキ鋼を処理して得られた表面の膜は、表面を腐食から保護するだけでなく自己修復作用を持つ。これまで、自己修復作用の実現は、毒性の疑いがある6価クロムを含むクロメート処理によってのみ可能だった事を考えると、技術的な偉業を成し遂げたといえる。
- (3) 冷間加工の際などに保護層が損傷しても自動的に修復されるようになったため、ルガルバン・パッシベーション製品による処理はコーティングを施していない金属表面の防食性を大幅に高める。

「ルガルバン FDC」

- (1) 処理に先立ってアルミニウムを脱脂処理する必要がなく、必要なら後で表面を塗装できる。
 - (2) 透明な保護膜として、そして付着力の増進剤として機能。
 - (3) 従来の保護膜処理で必要だった徹底した事前洗浄やすすぎの繰り返しが必要が不要。
- 以上1)~3)の理由で、工程が簡素化されコストを大幅に削減することができる。

BASF について

BASF (ビー・エー・エス・エフ)は「ザ・ケミカル・カンパニー (The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。BASF の製品群は、化学品、プラスチック、高機能製品、農薬、ファインケミカルから原油や天然ガスに至るまで多岐にわたります。あらゆる業界のパートナーカンパニーとして信頼されているBASFは、高度なソリューションと高品質な製品によって、顧客のさらなる成功をサポートしています。BASF では、新技術の開発とそれらを使用することで、新たな市場を切り開いています。また、経済的な成功と環境保護、社会への責任を融合させることでより良い未来に貢献しています。2004年度は約8万2,000人の従業員を雇用し、370億ユーロ以上の売上高を計上しました。BASF の株式はフランクフルト (BAS)、ロンドン (BFA)、ニューヨーク (BF)、パリ (BA)、チューリッヒ (AN) の各株式市場において取引されています。同社のインターネットホームページアドレスは www.basf.com です。BASF ジャパン (株) のインターネットホームページのアドレスは www.basf-japan.co.jp です。

本件についてのお問い合わせ先

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ 田所 (たどころ)
Tel. 03-3238-2341 / Fax. 03-3238-2514